

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険4

国立市立国立第七小学校

平成28年9月20日 NO.45 (345)

花ちゃん 「フッタ博士！この前はウイナーソーセージのお話ありがとうございました。」

オー君 「また、何かおもしろいお話を聞かせてくれるんですか。」

フッタ博士 「もちろんだよ。みんなのまわりには、はてな？なぜかな？

どうしてかな？という、おどろきや不思議な世界がい

っぱいあるんだよ。」



モンタ博士 「それでは、フッタ博士！『フッタワールド』のお話をどうぞお願いします。」

フッタ博士 「それでは、これも5年生の野外体験教室でのお話だけど、ポテトチップス
とペットボトルのお話をしよう。」

花ちゃん 「え！ポテトチップスとペットボトル？」

オー君 「ポテトチップスを食べながら、ペットボトルのお茶を飲むというお話かな。」

フッタ博士 「ちがうだよ。『気圧』のお話なんだよ。」

オー君 「何ですか。その『気圧』というのは？」

フッタ博士 「まず、みんなの頭の上には、目には見えない空気の柱が乗っかっているとい
うことなんだよ。」

花ちゃん 「それとポテトチップスとは、どういう関係なの。」

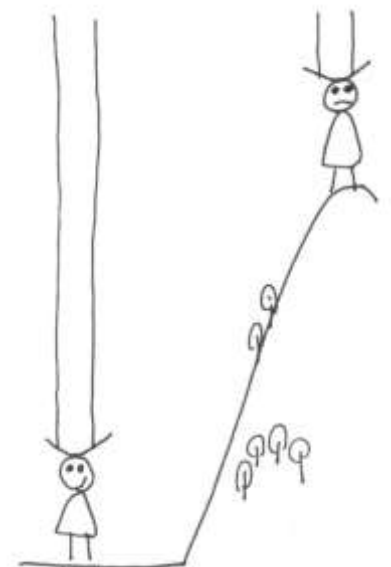
フッタ博士 「ポテトチップスの袋もこの気圧に押されているん
だ。袋の中にも気体があって、気圧に対して押し
返すから、いつも見るような大きさになるんだよ。」

オー君 「それで、それで・・・。」

フッタ博士 「それで、この普通のポテトチップスの袋を5年生
のみんなが登った飯盛山(1643m)に持って行くよ。」

花ちゃん 「そんなの無理ですよ。ここは国立ですよ。」

フッタ博士 「それができるんだ。フッタ博士が『ワープ!』と



さけ いどう
叫ぶと移動できるんだ。

ということで、フッタ博士が『ワープ!』と叫びました・・・すると

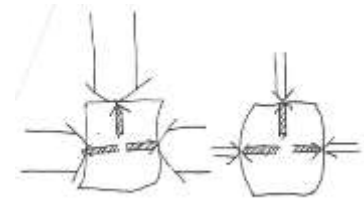
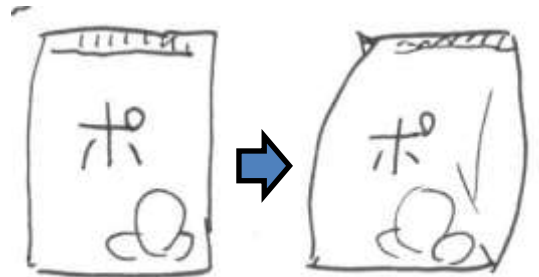
オー君 「あ! さっきまでのポテトチップスとちがうぞ。」

花ちゃん 「袋が太りました。不思議です。」

オー君 「フッタ博士! これはどうしてですか。」

フッタ博士 「飯盛山みたいな山では、それだけ標高
が高くなっているということは、頭の
上に乗っている空気の集まりがそれだ
け少なくて、気圧が低いということな
んだ。スナック菓子の袋は、地上で持

って行った時と比べて、袋の中の気圧は変わっていないんだ。それで、袋の
外の気圧に比べて、袋の中の気圧の方が高くなる。したがって、袋の内外の
気圧差で袋がふくらむということなんだよ。」



花ちゃん 「なるほど、フッタ博士。よくわかりました。つまり、ポテトチップの中の空気
が関係しているのですね。」

フッタ博士 「まあ、そういうことになるけどね。本当は、袋には空気は入っていないのさ。」

オー君 「え! それって、どういうことですか。」

フッタ博士 「食べ物、空気にふれると味や臭いや色が変わってしまうことがあるんだ。

これをむずかしい言葉で酸化というけど、袋に空気を入れてしまうと、ポテ
トチップスが油が酸化して味や臭いが変わってしまうので、本当は、『窒素』
を入れているのさ。また、味や臭いを守り、おいしさを保つためだけでなく、
窒素で袋をふらませることで、こわれやすいポテトチップスを守っているとい
うことなんだ。」

花ちゃん 「ふーん。そうなんだ。よくわかりました。ところで、ペットボトルのお話は?」

フッタ博士 「あ! ごめん。ごめん。そのお話はまた今度ね!」

オー君 「フッタ博士! また楽しみにしています。」